様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　元 年　 ６ 月　 ３ 日現在

機関番号：１４３０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2015～2018
課題番号：１５Ｋ０２３７８

研究課題名（和文）『失われた時を求めて』後半の歴史的背景と創作に関する総合的研究

研究課題名（英文）Global study of the historical backbround and the creation in the latter half of In Search of Lost Time

研究代表者
吉川　一義（YOSHIKAWA, Kazuyoshi）

京都大学・文学研究科・名誉教授

研究者番号：３０１１９８７０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、フランスの作家プルーストの長篇小説『失われた時を求めて』の後半が、どのような政治、社会、文化、言語の歴史的背景をもとに成立したものであるか、またそれらの事象がいかに本作に取り込まれたかを、当時の一次資料、作家のメモ帳、草稿帳、校正刷、書簡集などの網羅的調査によって解明したうえで、そうした歴史事象が作中でどのような機能を果たしているかを考察し、その成果を内外のシンポジウム、専門誌、『失われた時を求めて』の翻訳の注解などで発表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
『失われた時を求めて』には、現実とフィクションを微妙に交錯させることで小説の効果を高めている箇所が多い。その現実とフィクションの関係について、『失われた時を求めて』の成立基盤について、新たな見取図を描くことができた。とくに本作後半において重要な役割を果たす同性愛や第一次世界大戦の背景を明らかにすることにより、とかく観念的に解読されがちな『失われた時を求めて』を当時の歴史状況のなかに位置づけることができ、これにより従来「創作の秘密」とされてきた作家の現実受容と創造との関係をより実証的に解明する可能性が拓けた。

研究成果の概要（英文）：Through comprehensive examination of primary sources, the writer’s notes, rough drafts, proofs, collection of letters, etc., of the time, this research elucidates the historical background—politics, society, culture, and language—against which the French writer Proust created the latter half of the novel In Search of Lost Time and how those events were actually incorporated into the work. From here, how those historical events function within the work is considered. The results of the research were presented at symposiums in Japan and overseas, in journals, in annotations to a translation of In Search of Lost Time, etc.

研究分野：フランス文学

キーワード：プルースト　『失われた時を求めて』の後半　歴史的背景　創作過程

１．研究開始当初の背景

『失われた時を求めて』にあらわれる政治、社会、文化などの歴史的背景に関しては、さまざまな研究が存在する。詳細な注解を施された『失われた時を求めて』の校訂版 *À la recherche du temps perdu*, (Bibliothèque de la Pléiade, Gallimard, 4 vol, 1987-1989)、フィリップ・コルブ編纂の『プルースト書簡集』 (*Correspondance de Marcel Proust*, Plon, 21 vol, 1971-1993)が、小説成立の政治、社会、文化などの歴史的背景を明らかにする一次資料である。申請者が代表を務める日本プルースト研究会が作成した『プルースト書簡集総合索引』（*Index général de la Correspondance de Marcel Proust*, Presses de l'Université de Kyoto, 1998）はその補助資料となる。さらに André Maurois (Hachette, 1949), George Painter (Mercure de France, 1963 et 1966), Jean-Yves Tadié (Gallimard, 1996) が著した詳細な伝記には当時の政治や社会の状況が詳しく記述されている。申請者も一部を執筆した、小説と作家をめぐる総合辞典 *Dictionnaire Marcel Proust* (Champion, 2004)も貴重な情報を提供してくれる。フランス国立図書館での展覧会カタログ *Marcel Proust, l'écriture et les arts* (Gallimard, 1999)も重要な文献である。文化的背景については、さらに詳しい専門的研究が進んでいる。哲学では Anne Henry の *Marcel Proust, theories pour une esthétique* (Klincksieck, 1981) や *Proust romancier* (Flammarion, 1893)などの著作、絵画では Juliette Monnin-Hornung, *Proust et la peinture* (Droz, 1951) や、申請者の著作『プルースト美術館』（筑摩書房、1998）、『プルーストと絵画』（岩波書店、2008）、*Proust et l'art pictural* (Champion, 2010)、音楽では Jean-Jacques Nattiez, *Proust musicien* (Christian Bourgeois, 1999)、中世建築では Luc Fraisse, *L'Œuvre cathédrale, Proust et l'architecture médiévale* (Corti, 1990) など、特定分野に関する個別研究も数多く発表されている。またドレフュス事件、第一次世界大戦、第三共和政下の外交、当時のサロン文化などについても、最新の専門的論文によって『失われた時を求めて』成立の背景が詳しく考察されている。

プルースト研究の大半は『失われた時を求めて』の前半（とくに第一篇『スワン家のほうへ』）を対象としている。この前半の歴史的背景については、申請者は科学研究費補助金を受けた「『失われた時を求めて』の歴史的背景に関する総合的研究」（2012-14）にて網羅的な調査を行い、その成果をさまざまな論文をはじめ、拙訳『失われた時を求めて』の前半（岩波文庫全１４巻のうちの既刊７巻、2010-14）に発表してきた。しかし小説の後半部については、歴史的背景と創作との関係を総合的に解明した研究は、いまだ存在しない。本研究は、この欠落を補うため、プルーストと絵画に関する研究や『失われた時を求めて』前半の注解などで成果を挙げてきた申請者が、同じ方法を用いたうえで小説後半に関する総合的調査を行い、プルースト研究の発展に寄与するとともに、広く歴史的背景と文学創作との関係を解明する新たな視野を切り拓こうとするものである。

２．研究の目的

本研究は、フランスの作家プルーストの長篇小説『失われた時を求めて』のうち充分に研究が深められていない後半部（第４篇『ソドムとゴモラ』、第５篇『囚われの女』、第６篇『消え去ったアルベルチーヌ』、第７篇『見出された時』）に対象を絞り、それがどのような政治、社会、文化などの歴史的背景をもとに成立したものか、それらの事象が作中でいかなる有機的機能を果たしているかを総合的に調査、考察して、プルースト文学の独自性と普遍性の秘密を解明するとともに、その成果を『失われた時を求めて』後半部の翻訳・注解にて一般読者に公開することを目的とする。

３．研究の方法

（１）本研究の基礎資料は、さきに挙げた『失われた時を求めて』後半の刊本、書簡集、研究書のほか、当時の辞書、新聞雑誌をはじめとする一次資料である。まず、これらを広範に調査分析した。

（２）プルーストと接点を有する同時代の政治、社会、文化がどのような状況にあったかを解明するため、前記『書簡集総合索引』をはじめプルーストの各種刊本の索引を活用しつつ、当時の新聞や雑誌にあらわれた政治や社会の事件、文学・絵画・音楽・建築・演劇・バレエ・装飾芸術、写真などの文化事象に関する書物や論文などをリストアップした。そのうえで作家のこれら受容の実態を明らかにできる専門書、雑誌論文、当時のカタログやプログラムなどを収集・分析した。

（３）『失われた時を求めて』の後半にそれらの事象がどのように取り込まれたかについて初期作品、評論文、草稿ノート、タイプ原稿、校正刷なども援用して分析した。

（４）こうして受容された諸事象が『失われた時を求めて』の後半でどのような役割を果たしているかについて考察した。とくに小説の後半には、同性愛の問題、第一次世界大戦などの大事件への言及だけでなく、さまざまな社会事象、文化的イベント、絵画や音楽などの作品への暗示が頻出するばかりか、現実の人物や芸術に想をえた架空の人物や作品が出てくる。これら現実とフィクションがどのように交錯して複雑な小説空間を形づくっているか、それらの事象が作中でどのような機能を果たしているかを理解するよう努めた。

（５）以上の研究成果を内外の学会、シンポジウム、専門誌に発表するとともに、成果の一部を刊行中の『失われた時を求めて』の翻訳（岩波文庫）後半の注解に採りいれた。

４．研究成果

（１）以上の方法により、『失われた時を求めて』の後半に言及された政治、外交、社会、文化、言語などの事象の実態を実証的かつ総合的に明らかにできた。

（２）受容された社会や文化の事象がどのように『失われた時を求めての後半に取り込まれたかについて、小説本体や初期作品や批評文だけでなく、作家の創作メモ帳、草稿ノート、タイプ原稿、校正刷などの資料を調査することにより、現実の受容から創作へのプロセスを資料にもとづき実証的に明らかにできた。

（３）『失われた時を求めて』には、現実とフィクションを微妙に交錯させることで小説の効果を高めている箇所が多い。とくに本作の後半において重要な役割を果たす同性愛、パリの物売りの声、ヴェネツィア滞在、第一次世界大戦などの事象が作品にどのように取り込まれたかを総合的に分析することにより、現実とフィクションの関係について、現実のフィクションへの昇華へという図式では説明できない『失われた時を求めて』の成立基盤について、新たな見解をとりまとめることができた。

（４）プルーストの政治から文化の受容の背景を明らかにすることにより、とかく観念的に解読されがちな『失われた時を求めて』を当時の歴史状況のなかに位置づけることができ、これにより従来「創作の秘密」とされてきた作家の現実受容と創造との関係をより実証的に解明する可能性が拓けた。

（５）従来のフランス文学史では手薄であった、文学以外の社会や文化の受容に関して詳細な調査をおこない、文学史革新のひとつの方策を探ることができた。

（６）本研究の重要な成果の一部を、専門のシンポジウムや個別論文として発表することがで

きた。またその成果の一部を『失われた時を求めて』全訳後半の注解と解説に採り入れ、本研究の専門的成果を広く日仏の読書人に公開することができた。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計　9　件）

①Kazuyoshi Yoshikawa, « *Miss Sacripant* et ses modèles », *Proust en perspectives : visions et révisions*, Revue d'études proustiennes n° 2, Garnier, septembre 2015, p. 275-288.

②Kazuyoshi Yoshikawa, « Geneviève de Brabant : réseaux thématiques contextuels », *Proust et les "Moyen Âge"*, Hermann, septembre 2015, p. 105-115.

③Kazuyoshi Yoshikawa, « Proust and archeological discover », *Proust and the Arts*, Cambridge University Press, november 2015, p. 101-111.

④Kazuyoshi Yoshikawa, « L'homosexualité et la judéité chez Proust d'après les premières scènes de *Sodome et Gomorrhe* », *Littera*, n° 1, Société japonaise de langue et littérature françaises, mars 2016, p. 39-51.

⑤Kazuyoshi Yoshikawa, « Proust et ses "villes d'art célèbres », in Du côté de chez Swann *ou le cosmopolitalisme d'un roman français*, Champion, octobre 2016, p. 87-99.

⑥Kazuyoshi Yoshikawa, « Propos tenus à La Raspelière et dans le petit train », Bulletin d'Informations proustiennes, n° 46, novembre 2016, p. 87-99.

⑦吉川一義、「『コリドン』から『ソドムとゴモラ』へ――親近それとも対立？」、首都大学東京人文科学研究科紀要「人文学報」、514-15 号、2018 年 3 月、p．47-61．

⑧吉川一義、「『失われた時を求めて』におけるジャポニスム」、小林宣之編『明治初期洋画家の留学とフランスのジャポニスム』、水声社、2019 年 2 月 25 日、p．175-211．

⑨Kazuyoshi Yoshikawa, « De *Corydon* à *Sodome et Gomorrhe* : affinités ou divergences ? », *Revue d'Histoire littéraire de la France*, Paris, 119e année, n° 2, 2019. P. 385-395.

〔学会発表〕（計　7　件）

①Kazuyoshi Yoshikawa, « Propos tenus à La Raspelière et dans le petit train », Séminaires Proust de l'ITEM-CNRS, École normale supérieure, Paris, 8 février 2016.

②吉川一義、「文学は役に立つのか――プルースト『失われた時を求めて』の意義」、新潟大学フランス文学研究会、新潟大学駅南キャンパス、2016 年 11 月 5 日．

③Kazuyoshi Yoshikawa, « La *Recherche*, œuvre de fiction ou essai critique ? », Université de Kyoto, 11 décembre 2016.

④Kazuyoshi Yoshikawa, « De *Corydon* à *Sodome et Gomorrhe* : affinités ou divergences ? », journée d'études « Série et débat d'idées dans la littérature française », Université municipale de Tokyo, 25 octobre 2017.

⑤吉川一義、「『失われた時を求めて』におけるジャポニスム」、シンポジウム「明治初期洋画家の留学とフランスのジャポニスム」、大手前大学、2017 年 12 月 2 日．

⑥吉川一義、「プルーストはいかに翻訳するのか」、シンポジウム「世界文学の可能性 日仏翻訳の遠近法」、日仏会館、2018 年 4 月 13 日．

⑦吉川一義、「プルーストにおける自由間接話法と分身の声」、シンポジウム「語りと主観性――自由間接話法とその他」、東北大学文学研究科、2018 年 12 月 16 日．

〔図書〕（計　6　件）

①プルースト作／吉川一義訳『失われた時を求めて 8 ソドムとゴモラ I』，岩波文庫，2015 年 5 月，622 p.

②プルースト作／吉川一義訳『失われた時を求めて 9 ソドムとゴモラ II』，岩波文庫，2015 年 11 月，665 p.

③プルースト作／吉川一義訳『失われた時を求めて 10 囚われの女 I』，岩波文庫，2016 年 9 月，494 p.

④プルースト作／吉川一義訳『失われた時を求めて 11 囚われの女 II』，岩波文庫，2017 年 5 月，568 p.

⑤プルースト作／吉川一義訳『失われた時を求めて 12 消え去ったアルベルチーヌ』、岩波文庫，2018 年 5 月，674 p.

⑥プルースト作／吉川一義訳『失われた時を求めて 13 見出された時 I』、岩波文庫，2018 年 12 月，592 p.

〔産業財産権〕

○出願状況（計　0　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

○取得状況（計　0　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

６．研究組織

(1)研究分担者 なし

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号（8 桁）：

(2)研究協力者　なし

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：